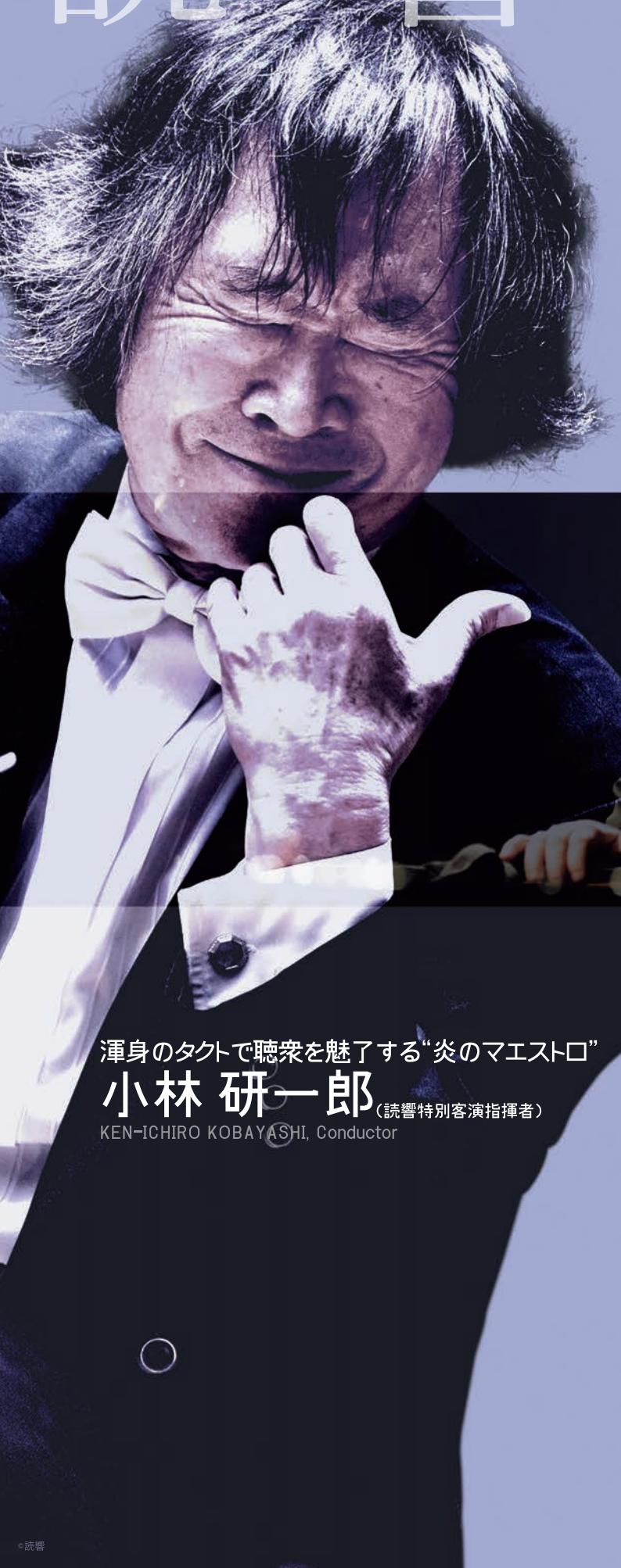


読 響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響



渾身のタクトで聴衆を魅了する“炎のマエストロ”

小林 研一郎

(読響特別客演指揮者)
KEN-ICHIRO KOBAYASHI, Conductor

小林研一郎× ヴィルサラーゼ

一音が、
人生を語る。

二人の巨匠、
夢の競演。

ロシア・ピアニズムを今に継承する世界的巨匠
エリソ・ヴィルサラーゼ (ピアノ)

ELISSO VIRSALADZE, Piano

©Nikolai Pushilin

ベートーヴェン ピアノ協奏曲 第1番

八長調
作品15

BEETHOVEN: Piano Concerto No. 1 in C major, op. 15

チャイコフスキイ

マンフレッド交響曲

作品58

TCHAIKOVSKY: Manfred Symphony, op. 58

読売日本交響楽団 第580回 定期演奏会

7.5 木 19:00 サントリーホール

S ¥7,500 A ¥6,500 B ¥5,500 C ¥4,000

Subscription Concert, No. 580 / Thu, 5th Jul, 2018 19:00 / Suntory Hall

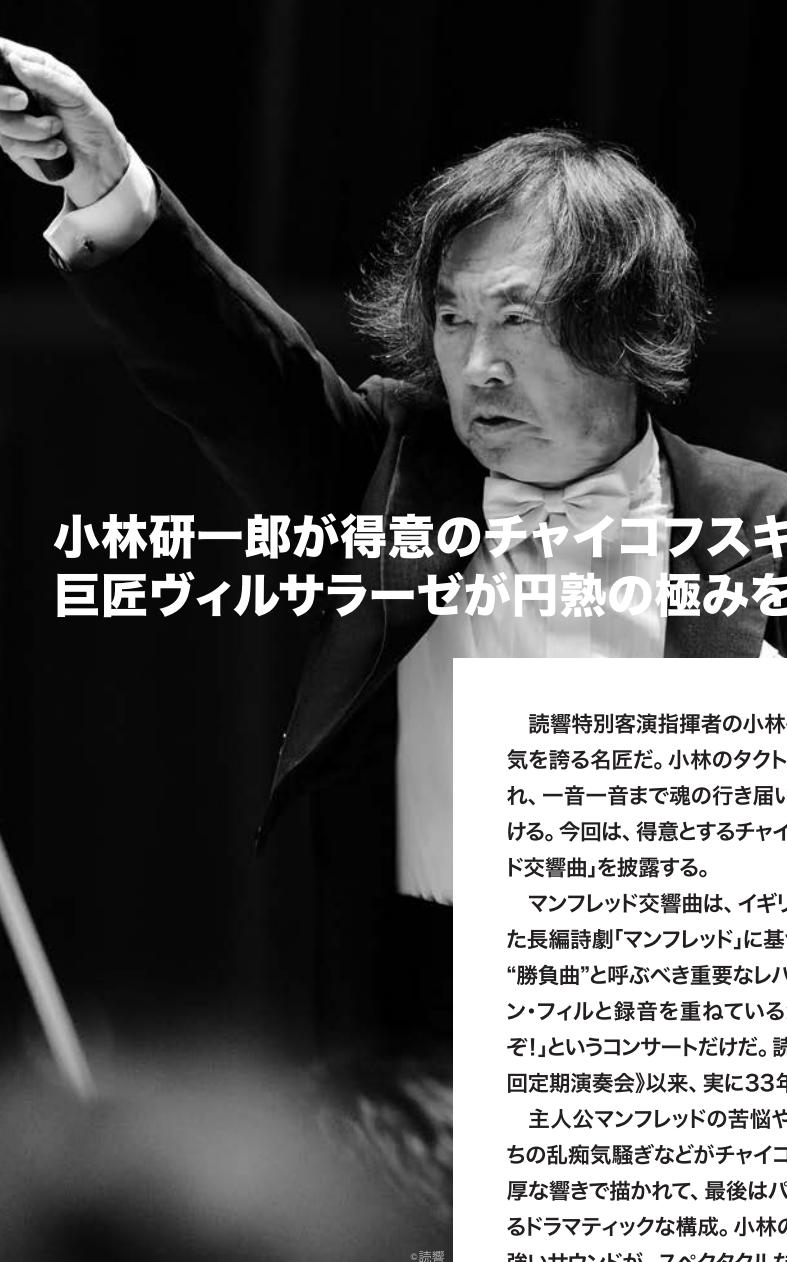
読響チケットセンター 0570-00-4390

(10時~18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会 協力: アフラック



小林研一郎が得意のチャイコフスキーオークションを指揮! 巨匠ヴィルサラーゼが円熟の極みをみせる。

読響特別客演指揮者の小林研一郎は、今年78歳。絶大な人気を誇る名匠だ。小林のタクトからは凄絶なエネルギーが放たれ、一音一音まで魂の行き届いた音楽が流れ、聴き手を惹きつける。今回は、得意とするチャイコフスキーオークションから、「マンフレッド交響曲」を披露する。

マンフレッド交響曲は、イギリスの高名な詩人バイロンが遺した長編詩劇「マンフレッド」に基づく標題交響曲で、小林にとって「勝負曲」と呼ぶべき重要なレパートリー。チェコ・フィルやロンドン・フィルと録音を重ねているが、実際に取り上げるのは「ここぞ!」というコンサートだけだ。読響とは、1985年2月の《第215回定期演奏会》以来、実に33年ぶりとなる。

主人公マンフレッドの苦悩や葛藤、村の牧歌的風景、山靈たちの乱痴気騒ぎなどがチャイコフスキートリニティの美しい旋律や重厚な響きで描かれて、最後はパイプ・オルガンが荘厳に鳴らされるドラマティックな構成。小林の渾身の指揮で、読響の分厚く力強いサウンドが、スペクタクルな劇的世界を築くだろう。

前半には、75歳の世界的巨匠ピアニスト、エリソ・ヴィルサラーゼを独奏に迎え、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番を演奏する。彼女は、ネイガウス、リヒテル、オボーリンらの薰陶を受けたロシア・ピアニズムの真の継承者。無骨さと繊細さを併せ持つ独特の空気感があり、哲学的な深い思索を感じさせる稀有な芸術家だ。ロシア音楽だけでなく、モーツアルト、ベートーヴェン、シューマンなどでも高い評価を得ており、今回のベートーヴェンでも気品ある温かなタッチで圧倒的な存在感を示すことだろう。

円熟の極みにある二人による一夜限りの競演を、ぜひ体験していただきたい。

エリソ・ヴィルサラーゼ ピアノ ELISSO VIRSALADZE, Piano

ロシア・ピアニズムを現代に継承する世界的巨匠。ジョージア生まれ。モスクワへ移り、ネイガウス及びザーグに師事。20歳でチャイコフスキーオークションコンクール第3位入賞を果たし、24歳でシューマンオークションコンクール優勝。モーツアルト、ベートーヴェン、シューマン、ショパンなど、18世紀～19世紀後期の作品で、高く評価を得ている。ロシア音楽の幅広いレパートリーを持ち、旧ソ連の権威ある芸術賞を多数受賞。欧州の主要音楽都市にて定期的にリサイタルを行うほか、室内楽などでも活躍。バルシャイ、コンドラシン、サヴァリッシュ、テミルカーノフ、K.ザンデルリンク、ムーティら巨匠の指揮で、フィルハーモニア管、サンクトペテルブルク・フィルなど世界の一流楽団と共演している。モスクワ音楽院とミュンヘン音楽大学の常任教授を務めるほか、主要な国際コンクールの審査員を務めている。



小林 研一郎 指揮 KEN-ICHIRO KOBAYASHI, Conductor

「コバケン」の愛称で親しまれている世界的指揮者。2011年8月から、読響特別客演指揮者の任にある。東京芸術大学作曲科および指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位。欧州の一流楽団を多数指揮しており、02年の「ラハの春」音楽祭では、東洋人で初めて開幕コンサートに招かれ「わが祖国」をチェコ・フィルと演奏。ハンガリー国立響の音楽監督やチェコ・フィル常任客演指揮者をはじめ、数多くの楽団のポジションを歴任。現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル、名古屋フィルの桂冠指揮者、九響の名誉客演指揮者、東京文化会館音楽監督、東京芸術大学、東京音楽大学、リスト音楽院の名誉教授などを務める。13年秋の叙勲で旭日中綬章が授与された。オクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリース。読響とはブームスの交響曲を全曲録音し、高い評価を得た。



読響日本交響楽団 第580回 定期演奏会

2018年 7月 5日(木)19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

・東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分・東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■ 学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証 / 25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■ 都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■ 未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可 / チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017